

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 支援を必要とする子どもに接する時、できた・できないの0か100ではなく25%ルールで良いところを探すことが大事だと分かりました。また、子どもを変えるよりも、本人が前もって回避できる手立てを考えるべきというお話も参考になりました。「やめなさい」と問題行動を正すだけでなく、子どもが訴えたいことを「そうやりたかったんだね」「そう言いたかったんだね」とよく話を聞いてあげたいです。勇気づけの言葉も大切にしていきたいです。
- ◆ 本科目を通じてコミュニケーションにおける要素や支援の必要な子どもの理解と支援について学びました。障害の有無に関わらず、成功体験を積み重ねていくことで自己肯定感も上がり、自分自身の理解を深めていけると知ることができました。そのためには、周りがかまなくサポートをしてあげることが大事になってくるので、普段の保育や家庭においてもつながるような声かけやアイメッセージなどを取り入れながら今後活かしていきたいです。
- ◆ 障害のある子どもへの支援には、障害の特徴を知り、子どもの困り感を知り、対応を工夫することが必要となります。心の危機の現れ方は行動異常的発症、心身症的発症、神経症的発症で、予防的な対応としては医療との連携が大事になります。障害のある子どもの具体的な支援例は学童保育の支援に通じるところがたくさんありました。ほめ方、叱り方、対応の仕方などを今後役立てたいと思いました。
- ◆ 障害のある子どもの支援にあたっては、周囲と同じようにできることを目標にするのではなく、その子なりの良さを伸ばし、本人や周囲に伝えていくことが大切です。自己肯定感が低下すると無力感から問題行動につながるため、褒める機会を増やし、自己肯定感を高めることが必要です。勉強が苦手な子どもに接し、つい「なぜできないのか?」と思いがちでしたが、「どうしてうまくできないの?」の演習で腑に落ち、今後活かしたいと思います。
- ◆ 不適応行動を予防するためにはあらかじめ予定を伝えて、選択肢を与えたり、いつできるかを伝えることが有効であることや、問題行動は間違った自己主張と捉え、正しい自己主張のやり方を教えることを学びました。よく話を聞いて、一緒に考えることは自己肯定感を低下させないために重要であることを理解できました。アイメッセージは注意するとき褒める言葉をかけてあげるきっかけになると思いましたので、今後の声かけで意識して使っていきたいです。